

論文委員意見交換会

2009年9月2日(水) 12:10-13:10

電気学会産業応用部門全国大会

議事

1. 編修長あいさつ 大石編修長
2. 査読マニュアルについて 大石編集長
3. 論文投稿・掲載状況 松岡D3主査
4. 電子査読システムの運用状況について
村上編集長補佐
5. 論文委員意見と回答 大石編修長
6. フリーディスカッション

D部門論文委員会 幹事団（H21年度）

編修長 大石 潔（長岡技術科学大学）

編修長補佐 村上 俊之（慶應義塾大学）

D1グループ（パワーエレクトロニクス）

主査 五十嵐 征輝（富士電機デバイステクノロジー）

副主査 藤崎 敬介（新日本製鐵） ほかに幹事5名

D2グループ（産業応用）

主査 織田 利彦（パナソニック） ほかに幹事7名

副主査 寺田 賢治（徳島大学）

D3グループ（電気機器）

主査 松岡 孝一（東芝） ほかに幹事5名

副主査 高瀬 冬人（摂南大学）

1. 編修長あいさつ

大石 潔 編修長

◆論文をよりよいものにしよう！

◆編修作業をより透明にしよう！

論文の著者と査読者に共通認識を
持っていただくことが重要

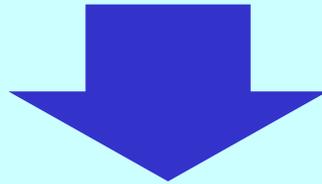
→ 査読マニュアルの周知・徹底
論文委員会ホームページの活用
ニュースレターの積極的な活用

2. 査読マニュアルについて

大石 潔編修長

査読マニュアルの目的

- 論文査読の基準を明確にすること。
- 論文投稿者と査読者が論文に対して共通の認識を持つこと。



- 査読期間を短縮すること。
- 査読に対する不公平感をなくすこと。
- 読みやすい理解しやすい論文を論文誌に掲載すること。

部門誌論文・査読の基本的考え方

- 論文の内容に対する全責任は投稿者にある。
- 論文の査読は論文指導ではない。
- 論文の価値の評価をするのは査読者ではなく、読者である。

投稿者は評価に耐えられる論文を作るよう、
査読者は論文を早く取り上げるよう努力をすべき。

- 次の論文を出したくなるような査読をすべきである。

何でも掲載すればよいというのでは勿論ない。
論文誌のレベルが下がれば投稿する魅力がなくなる。

査読の要点 (論文が備えるべき要件)

- 電気学術または技術に寄与するか。
- 新規性, 創意性, 有用性のいずれかが認められるか。技術面のみならず、考え方や纏め方、各種応用上の問題点の指摘など、広い観点からの新規性、創意性、有用性の判断がポイント
- 明白な誤り, 矛盾点がないか。論旨が一貫しているか。まえがきで指摘した問題点が、むすびで結論付けられているか。
- 同一内容, 類似内容が発表されていないか。
- 論文の完成度は掲載可能な水準に達しているか。

判定の基準

- 判定は4段階とし、以下の基準による。
 - 1) エディトリアルな修正のみ：掲載 (A判定)
 - 2) 修正内容が推奨項目 (Suggested change) のみ：条件付き掲載 (照会后掲載) (B判定)
 - 3) 修正内容に必須項目 (Mandatory change) を含む：照会后判定 (C判定)
 - 4) 論文の要件を具備していない：返送 (D判定)
- 完成度が低く内容が分かり難い等で、否定的な照会后判定 (C) をするよりは、返送 (D) で再投稿を促す方が良い。したがって、返送 (D) は、必ずしも新規性、創意性、有用性を否定する場合だけでない。
- 照会后判定 (C) は1回のみ。

照会文の書き方 (A, B, C判定)

- 1) 必須修正項目 (Mandatory change),
2) 推奨修正項目 (Suggested change),
3) エディトリアルな修正項目 (Editorial change) に分け, 判定の根拠を明確に記載する。
- 1) の必須項目のある論文は, 照会后判定 (C) とする。
- 2) の推奨項目と3) の項目のみの論文は照会后掲載 (B) とする。
- 3) の項目のみの論文は掲載 (A) とする。

返送文の書き方 (D判定)

- **理由を具体的に、明確に記載する。**

既に発表されている論文**との違い，優位性が明らかでない，あるいは，同一内容である。

論文の目的・主張・効果などが，論文記載のデータ，実験方法では確認できず，創造性等が認められない。

理論式の展開の**部分に誤りがある。

シミュレーション，実験で用いている変数，定数の値が理論式の仮定の範囲を外れ，理論の検証になっていない，等。

- **客観的な証拠に欠けていると判断された論文については，修正の上、新たな論文としての投稿を勧める。**

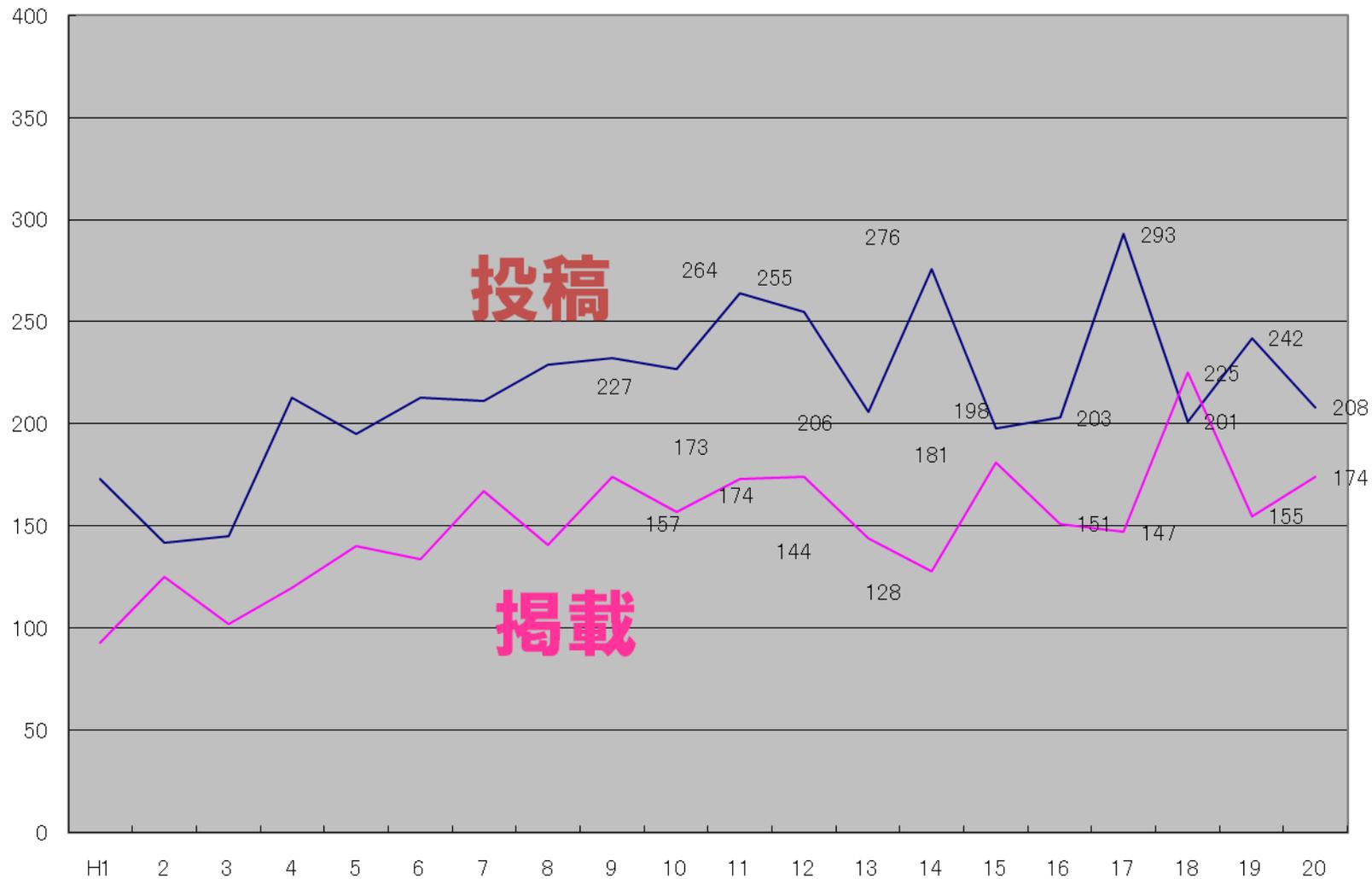
その他

- 掲載決定論文の内容の変更は、原則として誤字、脱字、フォントの不一致など、editorialな修正を除いて一切認められない。
- 掲載決定後、最終原稿を作成する過程で意図的に論文として不適切な文言を追加したことが明らかになった場合には、掲載の決定を取り消す場合がある。
- 査読マニュアルの内容は、常に改善ができることとする。

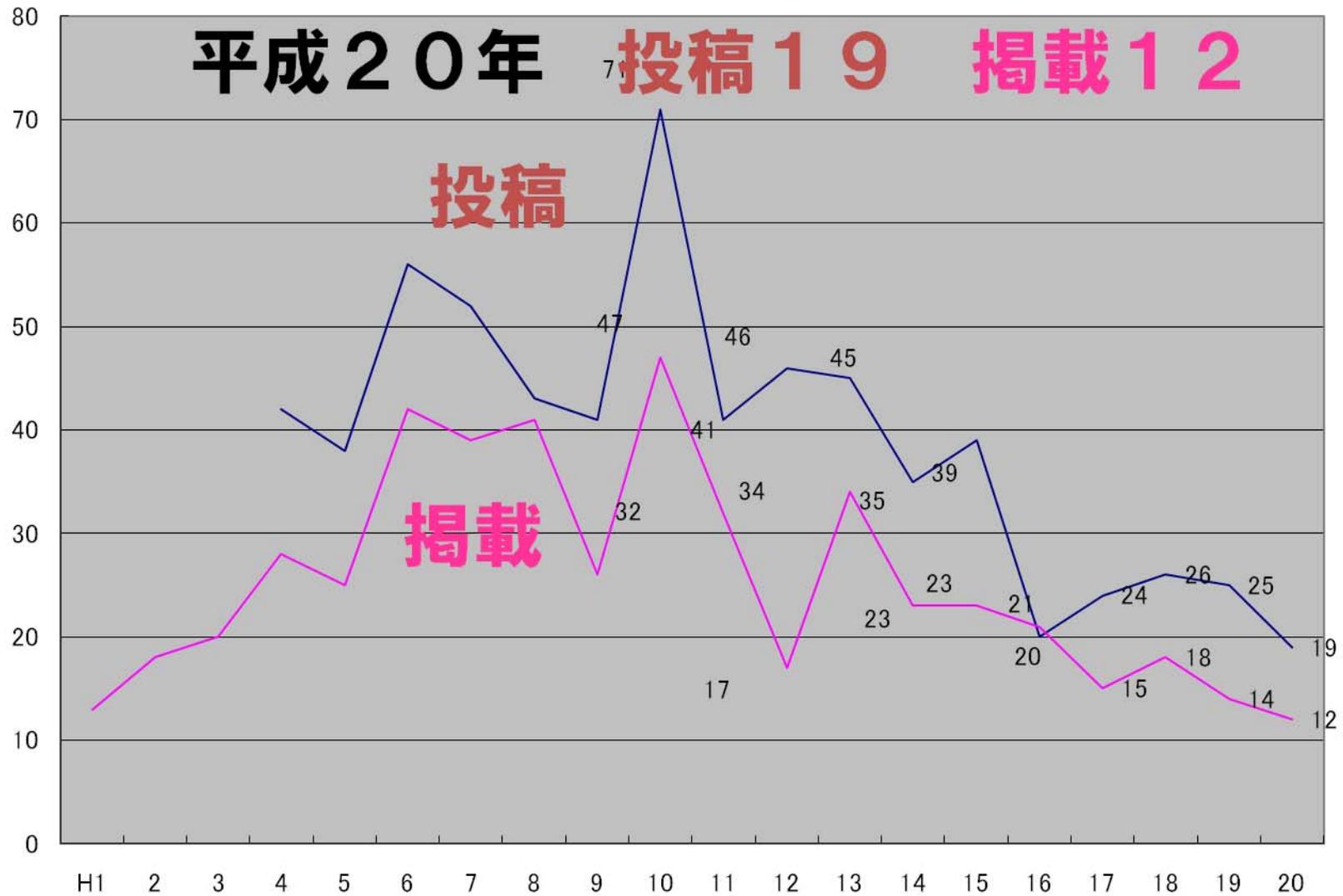
3. 論文投稿・掲載状況

D部門 論文投稿・掲載件数の推移

平成20年 投稿208 掲載174

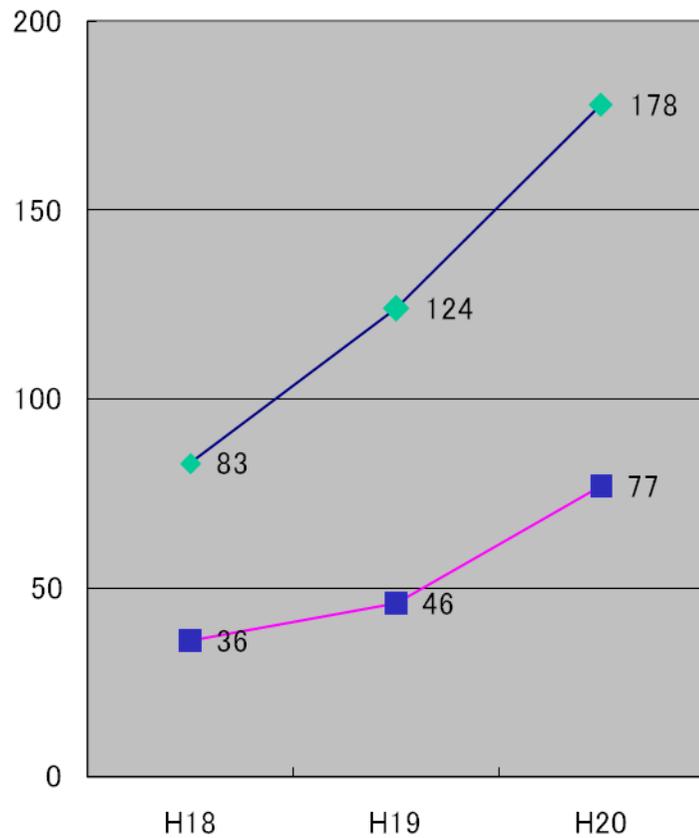


D部門 研究開発レター投稿・ 掲載件数の推移

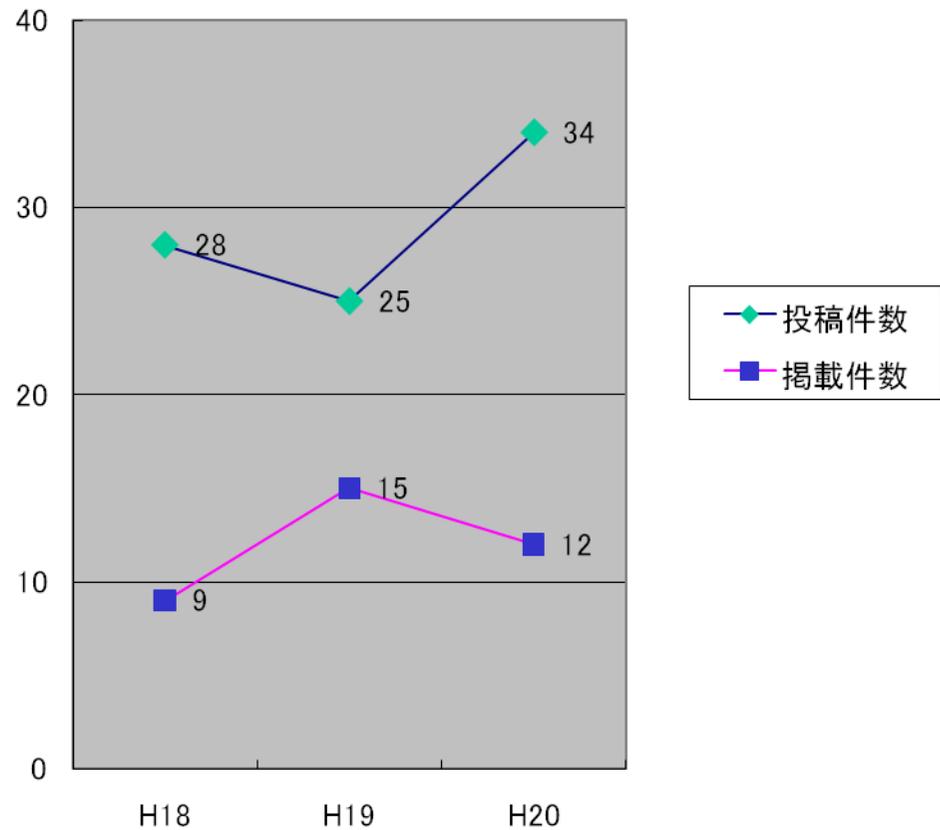


全部門 共通英文論文誌 論文・研究開発レター 投稿・掲載件数の推移

共通英文論文誌(全部門・論文)



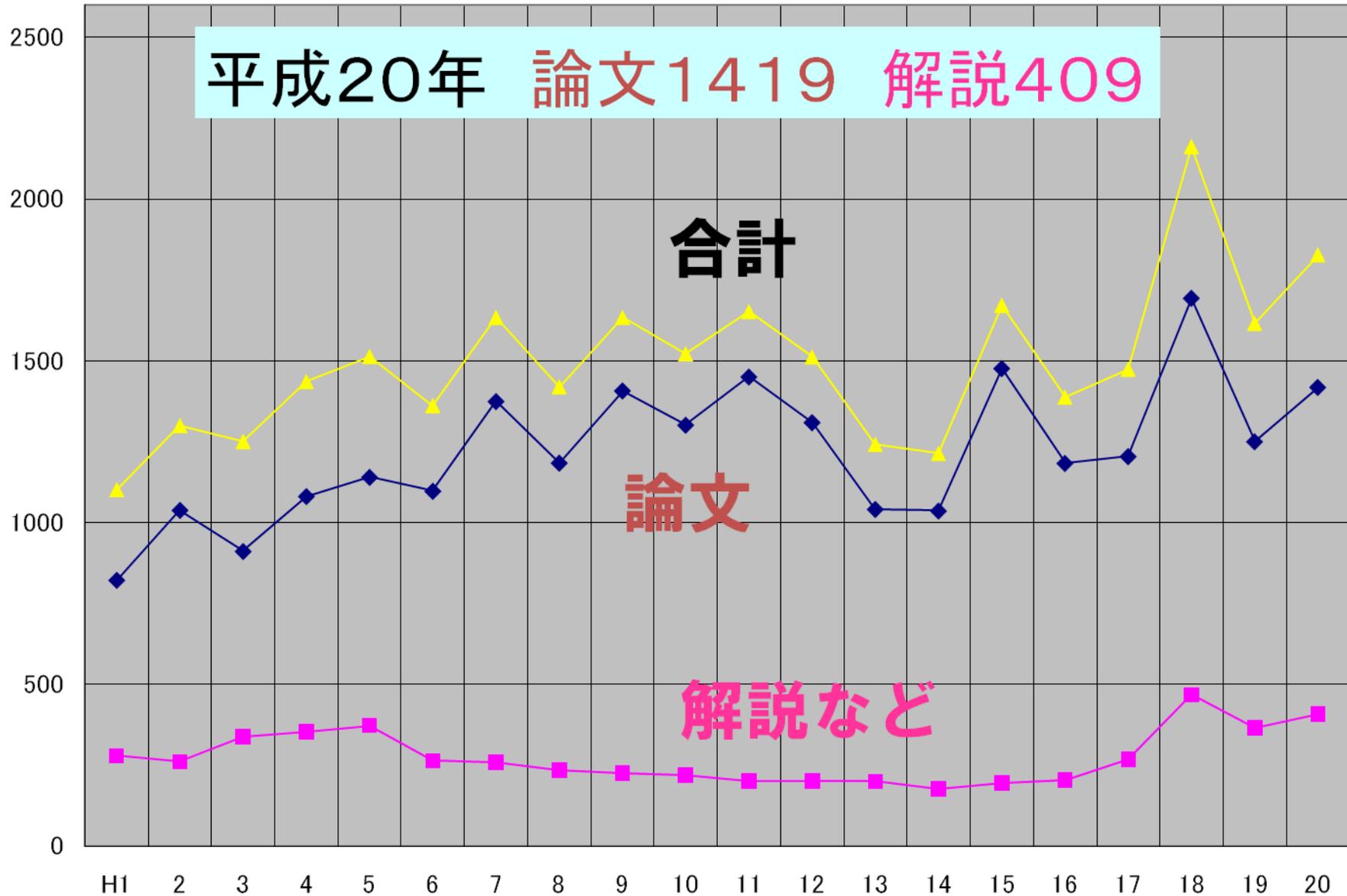
共通英文論文誌(全部門・研究開発レター)



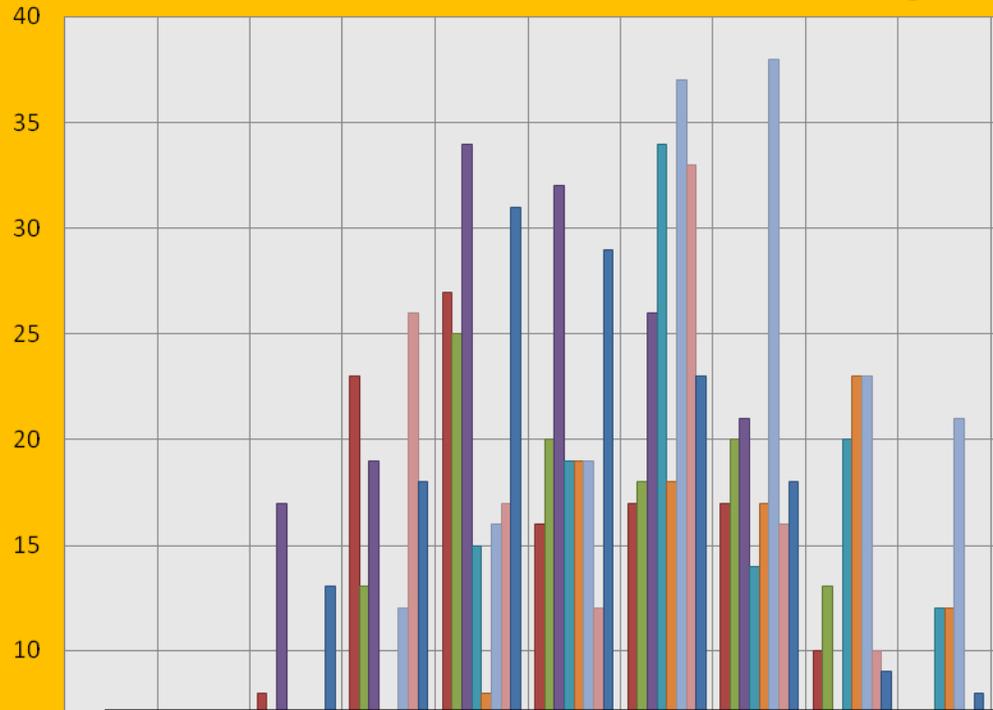
共通英文論文誌

- 平成20年度から一般論文と同様の査読
- アメリカThomson社の“Science Citation Index Expanded(TM) (SCI)”に登録
- 平成20年D部門関連の一般論文投稿が29件
- 判定は、A, B, DのみでCが無いことに注意

D論文誌の発行ページ数の推移



論文掲載決定までの所要月数（論文誌D）



平成14年	6.80ヵ月
平成15年	6.32ヵ月
平成16年	8.37ヵ月
平成17年	8.70ヵ月
平成18年	8.32ヵ月
平成19年	7.10ヵ月
平成20年	6.70ヵ月

平成20年

A部門：5.4ヶ月， B部門：6.3ヶ月

C部門：6.9ヶ月， E部門：5ヶ月

・幹事による管理の重要性

- H13.1-12
- H14.1-12
- H15.1-12
- H16.1-12
- H17.1-12
- H18.1-12
- H19.1-12
- H20.1-12

17	18
0	0
0	1
0	1
3	4
2	4
2	3
1	1
0	2

Extended Summaryのチェック

- ・平成20年から，掲載が決定した論文の
Extended Summary のチェックの試行
- ・全論文に拡大の方針
 - 外国人が理解できるExtended Summary
へ！

4. 電子査読システムの 運用状況について

電子投稿・査読システム運用状況

- 平成20年1月から、共通英文誌の電子査読・投稿システムの本格運用開始
- 全部門に跨る電子投稿・査読システム改善WGが立ち上がる。第一回委員会（平成21年7月15日）の協議を経て、次の変更が既に行われている。

電子投稿・査読システム変更事項(2009年8月)

【修正箇所1】 査読者画面に幹事回答の結果表示を追加

査読者の再査読画面

旧	査読者の回答結果のみ表示
新	幹事の回答結果（＝著者が閲覧した査読結果）も表示

査読者再査読画面

査読依頼論文

査読を行う論文の論文表示ボタンを押すと論文の閲覧ができます。また、査読結果を入力する際には入力ボタンを押してください。

査読報告期限は、原則として依頼日より1ヶ月(レターは2週間)です。査読依頼メールに記載の締切日をご確認下さい。

IEEJ ID	ターン	査読依頼年月日	査読処理状況
T08-L011	2	2008年12月12日	1 論文投稿:2008年12月12日 1 投稿事務受付:2008年12月12日 <input type="button" value="論文表示"/> 1 査読者B回答:2008年12月12日 <input type="button" value="結果表示"/> 1 幹事回答:2008年12月12日:評価B <input type="button" value="結果表示"/> ← 1 再提出:2008年12月12日 <input type="button" value="論文表示"/>
特集種別(期日)	特集号2 電気		
原稿種別	研究開発レター		
論文題目	12.12testtest ** title change**		
著者	Dr. gakkai denki	<input type="button" value="辞退"/> <input type="button" value="受諾"/>	査読結果 <input type="button" value="入力"/>

電子投稿・査読システム変更事項(2009年8月)

【修正箇所2】 投稿者が査読結果を確認する画面において判定を表示

投稿者の画面

旧 主査が判定を行った後、メールにて送付、画面での表示なし

新 投稿者画面において判定結果(B,C)を表示

投稿者画面

査読結果表示

査読結果は下記の通りです。

IEEJ ID	T08-099
判定	B

} ← 追加しました

照会事項または判定理由

PDFファイル

テキスト

ttttttt

電子投稿・査読システム変更事項(2009年8月)

【修正箇所3】 主査画面「処理済論文一覧」に歴代主査の処理した論文履歴も表示

【修正箇所4】 最終判定時（掲載，返送）の査読者コメント表示

投稿者の画面

旧	主査が処理を行った後表示
---	--------------

新	編修長が最終処理を行った後表示
---	-----------------

5. 論文委員意見と回答

意見交換会への出欠連絡回答:138件(81件)

出席:63名(46名)

意見・質問:11件(7件)

()内は昨年度

御意見に対する回答

御意見

例年、意見交換会の内容は、後日WEB上で公開されると思いますが、アップデートされたときに案内メールを頂けると、意見交換会に参加できなかった人も内容を知ることができて良いかも知れません。

回答

平成18年の資料より

<http://www2.iee.or.jp/~ias/d-ron/iken/>

からダウンロードできるように設定しております。

御意見に対する回答

御意見

今回の議題として「論文査読マニュアル」が挙がっております。これは2005年度の後半に原案の検討を開始し、その後HPに公開した内容を指していると思います。その主な狙いは、

- ①査読基準について共通の認識を持つことに加え、
- ②投稿者にも査読者と同じ意識を持って質の高い読みやすい論文を投稿してもらう点にあったと理解しています。

その後の、効果の検証、利用者の声、内容の改訂、などお聞かせいただきたいと思います。また、このマニュアルをより熟知してもらうための工夫、努力をされているのか、についてもコメントをお願いします。

回答

質問の趣旨の①と②の様に、論文査読マニュアルは、電気学会D部門の論文委員会の次のHPに常に掲載されています。 <http://www2.iee.or.jp/~ias/d-ron/sadoku/>

査読者が査読マニュアルを見やすくするために、電気学会D部門のHPを変更しました。論文委員会のHPも分かりやすい様に変更しました。このことを周知するために、議題にあげました。なお、査読マニュアルは、2007年4月27日のD部門論文委員会主査会において、共通英文誌の論文査読の件などに追記をしてから、特に加筆修正箇所はありません。

しかしながら、最近、最終判定の査読者に判定の迷いが長くなり、査読が大幅に遅くなった事がありました。そこで、最終判定の査読が大幅に遅くならないように、査読システムの改善をはかり、その改善を査読マニュアルに反映したいと思っています。

御意見に対する回答

御意見

査読にかかる時間が長くなりすぎています。もっと催促を頻繁に行い遅くとも2ヶ月程度で1回目の査読を返すようにできないでしょうか。(IEEEは督促がバンバン来ます)

回答

今のところ査読の催促は、60日後、14日毎にe-mailで行っています。さらなる催促メールの発信を検討しております。

また、査読受諾の催促は、査読依頼日より5日経過後、5日毎に行うように設定を変更しております(2009年7月変更)。

御意見に対する回答

御意見

他のレビューアのコメントも見れるようにして下さい。レビューアの質の向上につながると思います。

回答

レビューアのコメント提示に関しては、今後とも論文委員会内での検討が必要と考えております。なお、査読の最終結果は、査読に対する感謝の意を含めて、各査読者へ通知すること(感謝状送付)を、D部門より電子投稿・査読システム改善WGにお願いすることになります。

御意見に対する回答

御意見

論文査読結果を入力する (a)査読結果報告フォームにおいて 分類 (3)学術・技術の分野 の種類が少なく、選択に困ることが多々あります。

追加案として、「産業応用」「ロボティクス」「メカトロニクス」「インテリジェントシステム」「ヒューマンシステム」「医療福祉システム」「ものづくり」「画像システム」など 科研でも複合領域があり、ここを参考にされたらいかがでしょう。

回答

これは全部門で統一した対応を行うべきと考えております。現在、電子投稿・査読システム改善WGが立ち上がっておりますので、WGにキーワードの追加することをお願いしたいと思っております。

御意見に対する回答

御意見

以前から、査読結果を査読者に返すことを提案していますが、どのようになっているのでしょうか。IEEE では、AEが査読結果を取りまとめて投稿者に査読結果を送る際に、すべての査読者にも最終的な査読結果を送っています。これは、他の査読者が書いた回答文を見ることにより、回答文の書き方や論文をどのような観点で査読すればよいのか等を学ぶことができます。査読者のレベルアップの上で必要不可欠であると考えます。

回答

レビューアのコメント提示に関しては、今後とも論文委員会内での検討が必要と考えております。なお、査読の最終結果は、査読に対する感謝の意を含めて、各査読者へ通知すること(感謝状送付)を、D部門より電子投稿・査読システム改善WGにお願いすることにします。

御意見に対する回答

御意見

早期査読に対するインセンティブを僅かでも用意できないか。(期限を守るために査読が疎漏にならないか注意)

回答

主査会にて協議したく思います。インセンティブではありませんが、システム上可能な対応としましては、リマインダメールを早期に送付することが考えられます。

査読受諾の催促に関しましては、査読依頼日より5日経過後、5日毎に行うように設定を変更しております(2009年7月変更)。さらなる催促メールの発信も検討しております。また、査読期限を明確に明示するようにシステム変更を依頼しております。

御意見に対する回答

御意見

PDFファイルのプロパティから、査読者が判明した経験があります。

回答

これに関しましては、幹事、主査の方で注意深く確認をしておりますが、今後の確認をさらに徹底したく思います。

御意見に対する回答

御意見

■意見交換会の時間配分のお願い

ポスターセッション(12:20~14:00)の座長を引き受けています。最近は前後半に分かれており、13:10には前半の講演が終了します。そのため、全員の審査を行うためには遅くとも12:40ごろには途中退席する必要があります。つきましては、重要事項だけ前半の30分に集中してご報告いただくか、簡単な要約などを配布していただけると助かります。

回答

Q&Aの時間を多く設定できるようになるべく配慮しております。また、意見交換会の資料は平成18年の資料より <http://www2.iee.or.jp/~ias/d-ron/iken/> からダウンロードできるように設定しております。

6. フリーディスカッション

当日の意見と回答

Q6-1: Extended Summary と Abstract のネイティブチェックについて、著者とのやり取りができるのか？

A6-1: 1回の見直しは無料で実施できる。また、チェック後の修正分を採用するしないは、著者判断で決定願いたい。

**Q6-2: 電気学会の論文査読システムのID, パスワード
他部門も含め統一できないか？**

A6-2: D部門だけでは回答できないが, 事務局などに働きかけ前向きに検討します。

**Q6-3: 他分野の技術をD部門の分野で適用する場合
新規技術なのか公知技術なのかを明確にする基準が
あるとよい。**

A6-3: 基準が明確になるよう, 主査会など関係委員会で前向きに検討します。

Q6-4: 著者に査読結果が明確になるようにして欲しい。特に2人の査読結果がわからない。

A6-4: 査読結果は、各査読者の結果をまとめて幹事がトータルの判定を著者に連絡することになっている。

また、D判定はC判定とB判定と明らかに文面が異なるので、分かるはずである。B判定とC判定など判定が分かれた場合には、説明文を幹事が追記し、著者が修正論文を直しやすいようにしたい。

Q6-5: 他部門の論文も開示できるようにして欲しい。

A6-5: D部門だけでは回答できないが、事務局などに働きかけ前向きに検討します。

Q6-6: 若手や他部門の技術者が、体系的な技術の理解ができるよう、サーベイペーパーも論文として採択願いたい。

A6-6: サーベイペーパーも電学論の論文として、積極的採択することになっている。そのときは、通常の論文と異なることを主査や幹事から指示して、査読する様にしたいと考えている。